

大阪狭山市の学力向上の考え方について

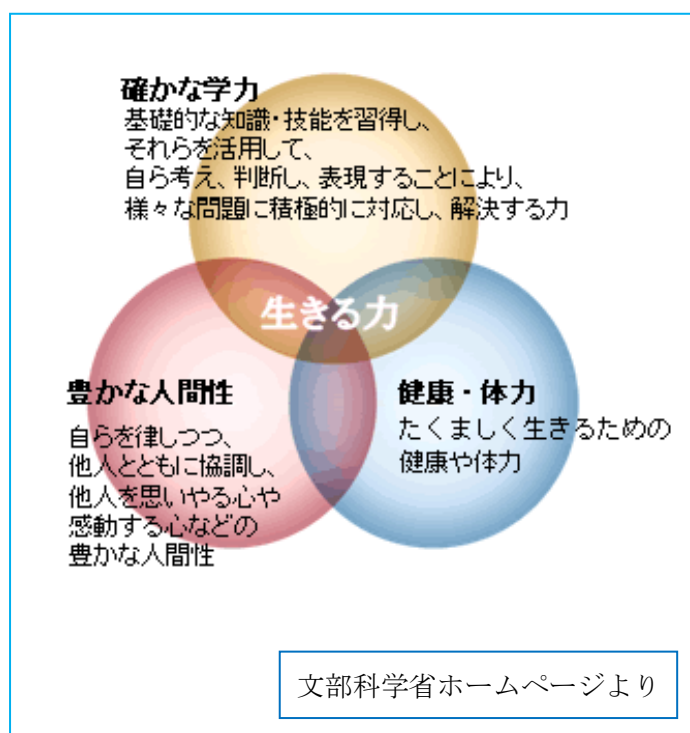
平成25年 2月

大阪狭山市教育委員会

保護者や地域の皆様には、日ごろから本市の教育活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、今年度は、全国調査（4月17日）と大阪府調査（6月12日）の2つの学力・学習状況調査が実施されました。大阪狭山市はすべての学校が、大阪府調査には参加せず、全国調査に参加しました。全国調査は、平成19年度より実施し、経年比較を行っております。

大阪狭山市では、これらの結果分析をふまえながら、「生きる力」（下図参照）の育成をめざしています。そして、「学力」「体力」「豊かな心」をバランスよく育てるように、取り組んでいるところです。



本市の学力向上に対する考え方について、Q&Aという形でとりまとめました。今年度策定いたしました「レボアクション24」（*別に記載）と合わせて、ご覧ください。



Q. 大阪狭山市の「学力」に対する考えを教えてください。

A. 新しい学習指導要領は、子どもたちの現状をふまえ、「生きる力」を育むという理念のもと、
①知識や技能の習得とともに②思考力・判断力・表現力など活用力の育成を重視しています。そ
して、そのような力の土台となるのは、③学習意欲です。

(※これら①②③は、学校教育法第30条第2項等において、「学力」の3つの要素と示されています)

これまでは、知識や技能（見える学力）の習得に重点が置かれがちでしたが、これからの社会
を生きていくためには、活用力と学習意欲（見えない学力）が特に大切とされています。

大阪狭山市では、学習過程における子どもの姿を大切に評価し、子どもが今までに学んだこと
を活かそうとしていたり、積極的に取り組もうとしたりする姿を見つけ、ほめて自信や意欲を高
める指導をめざしています。そして、このような地道な取組みを継続し、「見える学力」だけでな
く「見えない学力」を高めることが、将来にわたって必要なことを学び続ける子どもの育成につ
ながると考えています。

Point!

- 生きる力を育むためには、学力の3つの要素を、バランスよく育むことが大切です。
- 「学習意欲」は、日本の子どもの大きな課題ということが、今年度の国際的な調査でも
わかりました。
- これまでの調査の分析結果から、本市の子どもたちも、学習意欲を向上することが、特
に大切と考えられます。

樹は、根がしっかり
張ってないと、大き
く成長できません。

大阪大学の志水宏吉教授は、
学力を樹にたとえて、説明されています。

葉は、テスト等によって測定可能な「見える学力」
根は、「見えない学力」で学習意欲を表しています。
葉と根をつなぐ**幹**は、思考力・判断力・表現力等に当
たります。

葉と幹と根がバランスよく成長してこそ、力のある
樹に成長できます。



Q. 学力・学習状況調査は、何のために実施されるのですか？

A. 学力・学習状況調査の目的は、「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる」ことです。文部科学省の学力調査に関する専門家会議の座長である梶田叡一さんも、「学力調査の目的は、『評価』ではありません。実態を把握して、各学校が一人ひとりの子どもたちを指導し、教育委員会が学校を支援するために行います」と強調しています。

大阪狭山市は、この目的に応じて学力調査を実施し、活用しています。



Q. 今年度、大阪府調査に参加しなかったのは、なぜですか？

A. 大阪府調査は、個票に学校平均点を記載することになりました。これは、文部科学省が実施する全国調査と大きく異なるところです。※参照 文部科学省ホームページ 学力調査実施要項

そのようなことをふまえ、教育委員会議で慎重に審議した結果、

- 調査の結果は、小学校6年生と中学校3年生の子どもたちの学力の一部を示すもので、学校平均点を公表することによって学校の序列化を招く恐れがあり、そこに教育的意義は見出せない。
- 学校平均点の個票への記載は、本市の教育理念「自分らしく、いきいき学ぶ子・人とつながり、さやまを愛する子」として、自尊感情を高めようとする方針に逆行するだけでなく、データとして別の目的に利用される可能性があり、過度の競争や差別選別につながることに懸念される。
- 過去にも、過度の競争や土地差別などがおきて、国が調査を廃止した経緯があり、同じことを繰り返してはならない。
- 平均点の数字のみで、その学校の学力と捉えられるのは、学校やそこで学ぶ子どもにとって、大きなマイナスである。※参照 下表「学力の高い学校って、どの学校？」

などの理由により、本市としては参加しないことに決定いたしました。さらに、いじめが大きな問題になっている今、その誘因になりかねないとも危惧します。

■参考■ 「学力の高い学校って、どの学校？」—学校の課題と平均点—

	A校	B校	C校
平均点	70点	70点	70点
分布状況	・80点×40人 ・30点×10人 ・未受験8人	・70点×40人 ・未受験3人	・80点×28人 ・70点×28人 ・0点×4人 ・未受験0人

学力調査によって、「学力の二極化」「未受験の子どもへの生徒指導」「B問題の活用力」「特別な支援を要する子どもへの学力保障」等の課題が抽出されます。

平均点が同じでも課題が全く異なるのは、上表の通りです。また、1学年の人数が少ないほど、個人の課題が顕著になります。

Q. 大阪府調査に参加せずに、大阪狭山市の子どもたちは不利益を被らないのですか？

A. 全国調査で学力を把握し、学力実態や生活実態を把握することができますので、不利益にはなりません。

本市では、学力はきちんと把握しつつ、学校が序列化されることを避ける方法として、抽出で実施される全国調査に、自主的に全校で参加することといたしました。

自主的に、全国調査に参加すれば、採点や課題分析にかかる費用はすべて市の負担になりますので、本市では市内小中学校の教員が協力して、実施後すぐに採点し、課題分析などの業務にあたりました。このことによって、各教員が、自分の学校の子どもの実態を直接把握することができ、日々の指導に活かすことができています。個票も、教職員が手作りして、児童・生徒に返却しています。

大阪狭山市では教育委員会も学校も常に、「子どもたちのためには、どうするのがよいか」ということを中心に据えて考えております。同じ学校でも学年によって課題が異なりますので、「学力の差に応じた指導」「生徒指導上の支援」「仲間づくりの視点」など、実態に応じて重点を決めて取り組んでいるところです。

今年度の学力調査の対応を通して、「学力調査の結果を分析するとともに、さまざまな角度から子どもの実態を把握し、子どもの理解を深めながら学力向上に取り組むことが大切である」という考え方を、あらためて確認することができました。

学力面・生活面の総合的な分析は、従来通りの形で教育委員会と学校がそれぞれ行い、学校だよりやホームページ（市・学校）で公開していますので、ぜひご覧ください。

大阪狭山市教育委員会学校教育グループホームページ

<http://www.osakasayama.ed.jp/gakko/>

